

風力発電に関する淡路島住民・行政職員の認識調査

11507 桂 識貴

指導教員 市川智史教授

1. はじめに

今日、持続可能な社会を作り上げていく上で風力発電や太陽光発電といった再生可能エネルギーへの期待が高まっている。筆者の出生地である淡路島では持続可能な地域社会モデルを生み出していく「あわじ環境未来島構想」が推進されており、その中では洋上風力発電施設の建設が検討されている。淡路島の未来に向けた風力発電事業計画に対して、淡路島住民は目を向けていくべきである。

そこで本研究では、淡路島住民、および行政職員の 風力発電の利点・欠点に関する理解、 風力発電に対する意識、 について質問紙調査による実態把握を試みた。

2. 調査方法

本調査は、淡路島の一般住民、および、島内の市役所、行政事務所の職員を対象に行った。調査方法は質問紙調査とし、一般住民に対しては、許可の得られたスーパーマーケットの駐車場において、買い物客等に直接依頼し、その場で記入、回収した。行政職員に対しては、許可の得られた市役所、行政事務所の職員に調査票を配付し、後日、回収した。調査の際、一般住民に対しては、風力発電施設の写真を提示したが、行政職員に対しては提示していない。なお、調査票は、一般住民、行政職員ともに同じものを用いた。

調査内容は、回答者の属性に関わるフェースシートのほか、調査目的に応じて、次の問いを設定した。

(表1)

表1 調査内容

目的	設問項目
風力発電の利点・欠点に関する理解	・発電過程の二酸化炭素の排出について ・睡眠などの健康影響について ・電力の安定供給について ・野生動物の生息への影響について
風力発電に対する意識	・安全・安心なエネルギーと思うか ・観光面での地域活性化に繋がるか ・景観を損なうかと思うか ・自宅近くでの風力発電建設計画に対する賛否
その他	・「あわじ環境未来島構想」を聞いたことがあるか ・淡路島内での風力発電の存在を知っているか

3. 結果・まとめ

「風力発電の利点・欠点に関する理解」に関して

- ・一般住民よりも行政職員の理解度が高く、約7～8割であることが明らかとなった。
- ・一般住民の理解度は約5～6割であり、多数の住民が理解していると言える程ではなかった。

「風力発電に対する意識」に関して

- ・一般住民、行政職員共に、安心安全なエネルギーであり、景観を損なわないと考えている。
- ・一般住民においては、観光面での地域活性化に対して期待感が見られ、風力発電の建設計画に対して賛成の意向を持っていた。一方、行政職員においては、反対の意向を持っていた。

風力発電の利点・欠点に関しては、多数の一般住民が理解していると言える程ではなかった。一方、行政職員は、総合特区事業として様々なエネルギーに関する取り組みを推進しているため、業務に関連する知識に関しては理解が得られていると考えられる。今後、風力発電を含むエネルギー事業に関して、行政側が積極的に啓発活動を行うなど、一般住民の理解度を上げる必要があると考える。

風力発電に対する意識に関しては、地域活性化、建設計画の賛否において一般住民と行政職員との意識の違いが明らかとなった。風力発電を含むエネルギー事業に関する合意形成という点では、一般住民と行政職員の意識の違いをなくしていくことが重要になると考えられる。そのために、エネルギー事業に関して、一般住民への情報伝達をより活発に行っていく必要があると考える。